

経営比較分析表（平成30年度決算）

滋賀県 総合病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	500床以上	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	30	対象	I 剖 方	救 臨 が 地
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
1,420,080	90,746	非該当	7 : 1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 方…ガン（放射線）診療

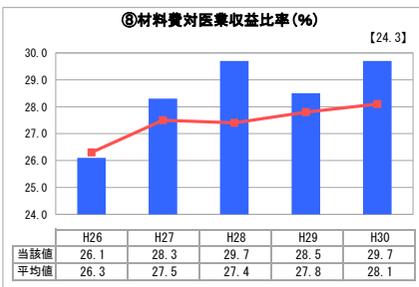
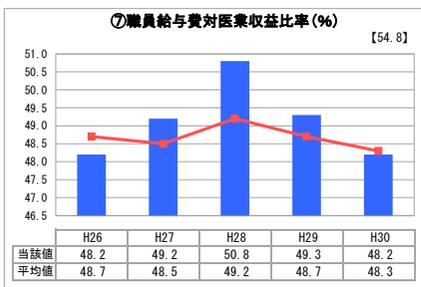
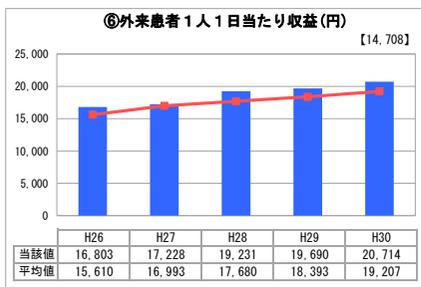
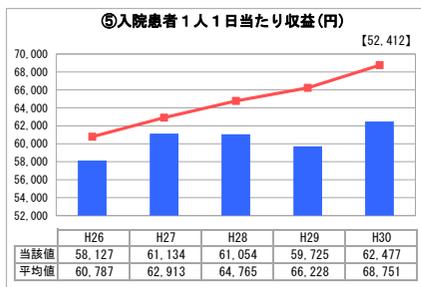
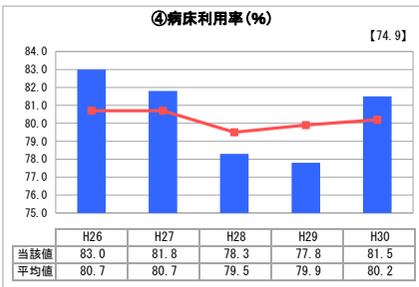
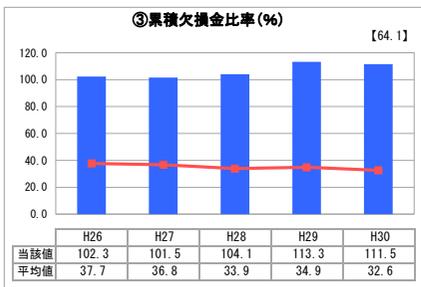
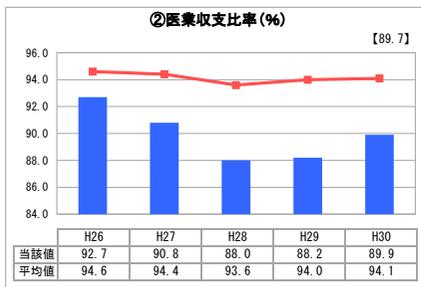
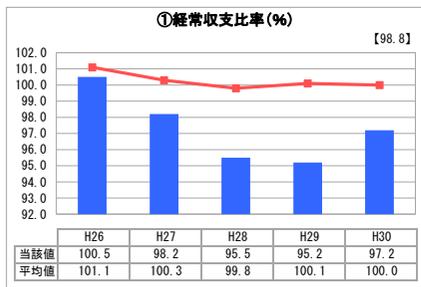
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
535	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	535
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
535	-	535

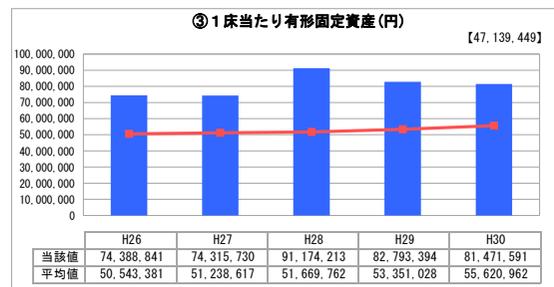
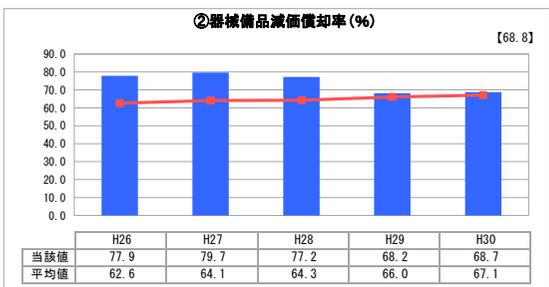
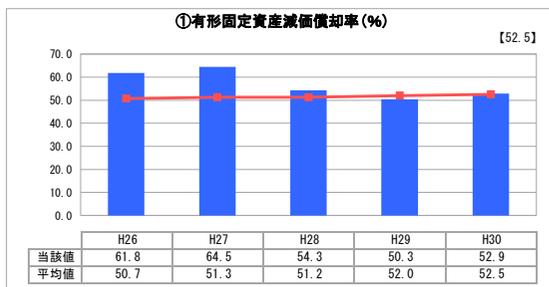
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

がんをはじめとした専門分野において、手術、化学療法、放射線治療のほか、リハビリテーション、再建医療、緩和ケアも含めた多角的総合的な医療、ケアを提供するなど、県内全域を対象とした、高度な医療の提供を担っている。
また、脳・心臓血管疾患を中心に24時間体制で救急患者を受け入れるなど、救急医療の提供を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ・ 入院患者数の増加や診療単価増により平成29年度に比べ増収となり、経常収支比率は改善した。
- ・ 新入院患者数、延入院患者数が増加しており、平成29年度に比べ病床利用率が増加した。
- ・ 増床に備えて医療職の採用を計画的に増やしてきたため、職員給与費対医業収益比率が増加していたが、新病棟が稼働して見合う収益が確保され始め、昨年度に引き続き減少に転じている。
- ・ 高額な抗がん剤治療にも幅広く対応しているため、材料費対医業収益比率が上昇し、全国平均を超えている。

2. 老朽化の状況について

- ・ 有形固定資産について、新病棟の建設をはじめ、施設・設備の更新を進めており、有形固定資産減価償却費率は前年度並みとなった。
- ・ 器械備品について、全国平均と同水準となった。医療技術が高度化する中で、引き続き、安全で質の高い医療を提供していくため、医療機器の整備と計画的な更新を進めていく必要がある。
- ・ 高度な医療の提供に向けた、建物、医療機器などにより1床当たり有形固定資産の保有が全国平均よりも多い傾向が見られる。

全体総括

当院では、がん、血管病をはじめ、加齢に伴って複合的に生じる疾患に対して困難な症例にも対応できるよう高い専門性を有する人材を確保するとともに、高度な設備、機器を整備してきたところ。
平成30年度は患者数増や診療単価増により入院収益が増加した。一方で材料費は患者数の増加や高額材料の増加などにより増加しており、費用負担も増している。
今後も引き続き、安全で質の高い医療の提供に努めて、収益の確保につなげていくとともに、労働生産性の向上による時間外勤務の縮減や価格交渉による材料費の削減など費用の適正化を図り、単年度黒字化を達成、累積欠損金を減少させていく必要がある。

経営比較分析表（平成30年度決算）

滋賀県 小児保健医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	9	-	訓	臨
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
1,420,080	12,970	非該当	7：1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 方…ガン（放射線）診療

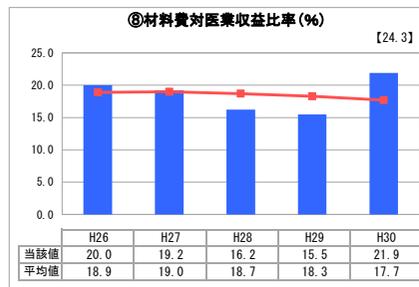
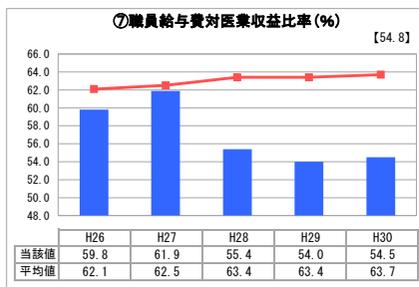
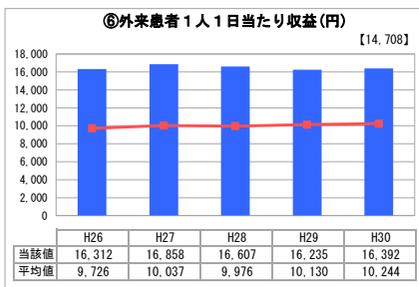
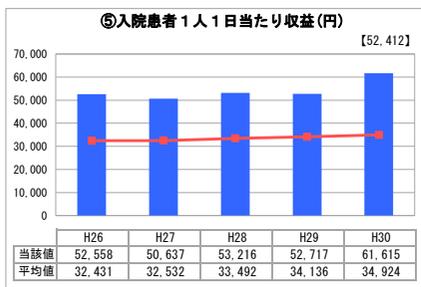
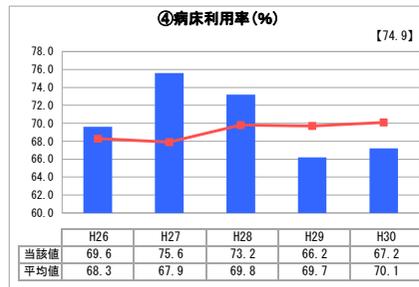
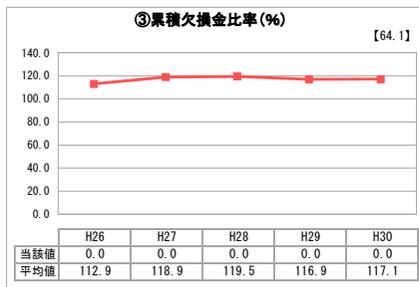
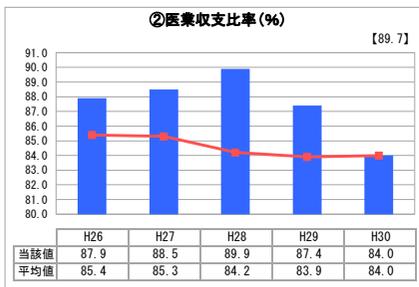
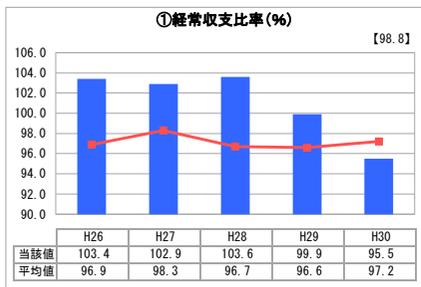
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
100	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	100
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
100	-	100

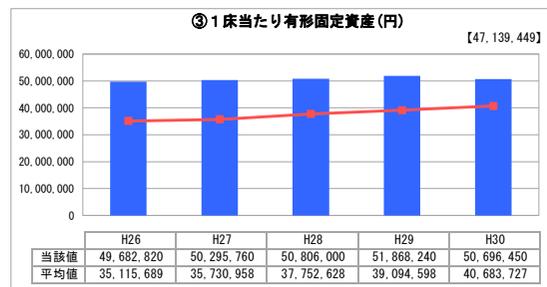
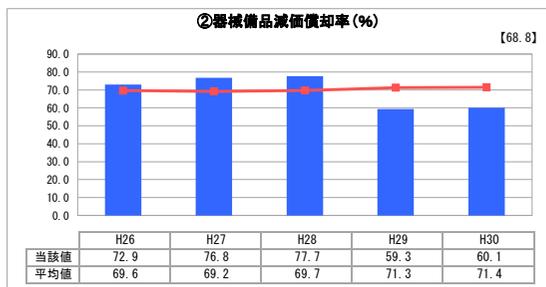
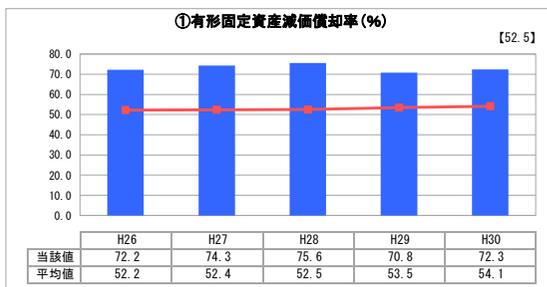
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

- ・一般病院では対応困難な障害児医療や難治・慢性疾患を中心に、地域医療機関と連携を図りながら高度専門的かつ包括医療を提供している。
- ・乳幼児健診事業、母子保健従事者への研修、生活集団教室や遠征相談など、母子保健の中核的支援拠点として小児保健サービスを提供している。
- ・児童福祉法に基づく医療型児童発達支援センターを併設し、総合的な療育とリハビリテーションを行うとともに、地域療育教室への職員派遣や療育研修会などのサービスを提供している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

・病床利用率の低迷により入院収益が不調な一方で、相対的に材料費対医業収益比率が高くなり、医業収支比率が大きく落ち込むこととなった。

・経営改善に向け、診療体制の充実や情報発信力の強化により患者数を増やし、病床利用率の向上を図るとともに、市場の分析や業者間の価格競争により材料費や経費の抑制に努める。

2. 老朽化の状況について

・当センターは、開設から31年が経過し、施設・設備の老朽化が進んでおり、類似病院の平均値と比べ減価償却率が高く、病院の建て替えを計画しているところである。

・当センターは、一般病院では対応困難な障害児医療や難治・慢性疾患患者を中心とした高度専門医療を提供しているため、性能が高く機能が充実した医療機器を整備している。そのため、1床あたりの有形固定資産の比率が同規模の一般病院の平均値より高くなっている。

全体総括

当センターの経営状態は、平成29年度までは比較的堅調に推移していたが、平成30年度は経常損益の赤字幅が拡大した。今後、病床利用率を向上させ、入院収益の増加を図ることにより医業収支比率を改善し、持続可能な経営の実現に努めていく。

また、当センターは、昭和63年の開設以来、難治慢性疾患患者の治療・ケア・保健を中心とした高度専門医療を提供してきたが、この間、医療技術の急速な進歩および重症患者や発達障害児の増加など、開設当初の医療機能では対応が困難な問題が生じてきている。このため、平成29年度に策定した病院機能再構築の基本計画に基づき、令和6年の県立総合病院との統合に向け、令和元年度に基本設計を実施している。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（平成30年度決算）

滋賀県 精神医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	精神科病院	精神病院	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	4	-	-	臨
人口(人)	建物面積(m ²)	不採算地区病院	看護配置	
1,420,080	10,398	非該当	15:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

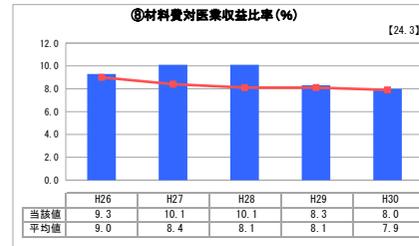
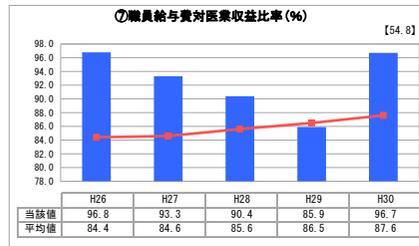
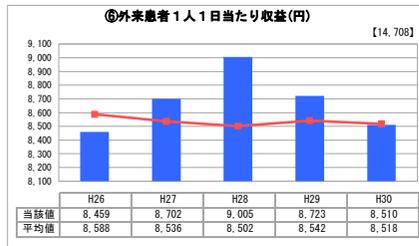
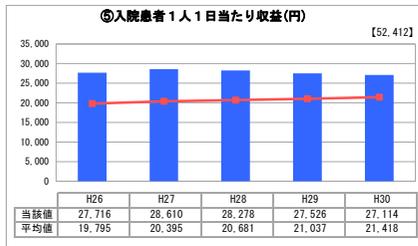
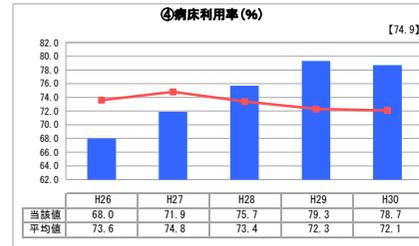
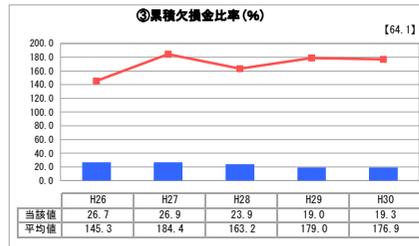
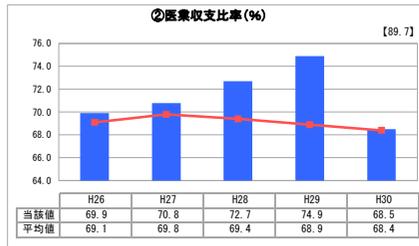
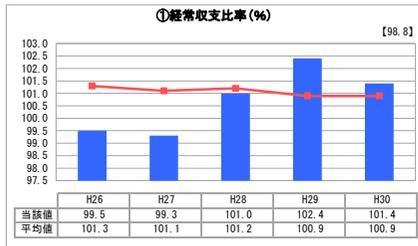
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(総核)
-	-	-
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
123	-	123
稼働病床(一般)	稼働病床(療養)	稼働病床(一般+療養)
-	-	-

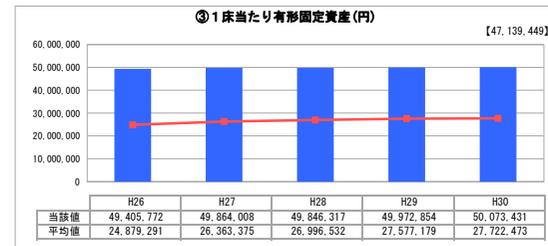
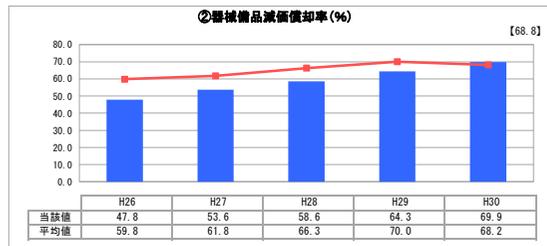
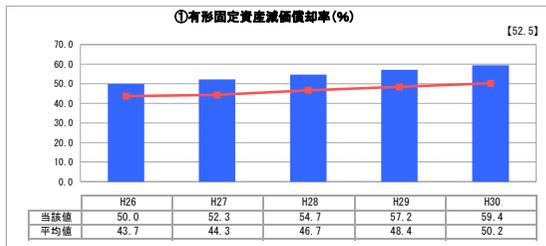
グラフ凡例

- 当該病院値(当該値)
- 類似病院平均値(平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組(直近の実績時期)

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-年度	-年度	-年度

I 地域において担っている役割

県内の精神医療を担う中核施設として、地域医療機関や保健所などの関係機関との連携のもと、思春期精神障害、アルコール依存症等中毒性精神障害、精神科救急医療および身体疾患を伴う精神障害などを中心として、高度・特殊専門医療を担っている。
また医療観察法に基づく鑑定入院および指定通院・入院医療機関としての医療を提供している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ・収益確保の取り組みを継続したことにより、平成30年度も黒字決算を達成することができた。黒字決算は平成28年度から3期連続となった。
- ・平成30年度は患者数減により医療収益が減少し、医療収支比率が低下したが、職員給与費が減少したことで経常収支比率は対前年比では低下したものの101.4%を確保することができた。
- ・累積欠損金比率は類似病院平均値を下回っているが、引き続き医療収支比率を改善し、累積欠損金の解消に努める。

2. 老朽化の状況について

- ・平成25年度に新病棟を開設したことから一時的に有形固定資産減価償却率が低下したが、既存病棟は平成年度に開設したものであり、類似病院平均値と比較してもやや老朽化が進んでいる。
- ・耐用年数を超過している備品が多く、平成26年度に導入した電子カルテの減価償却も進んでいることから、器械備品減価償却率は類似病院平均値並となった。
- ・県立病院として本来の病院以上の機能を付加して建設しているため、類似病院平均値よりも1床当たり有形固定資産が高くなっている。

全体総括

・平成30年度は、医師が退職したことにより患者数が減少し、医療収支比率が対前年比で減少したが、類似病院平均値を維持することができた。今後は患者数に影響が出ないよう医師確保に努めるとともに、引き続き診療収益確保・経費削減の取り組みなどにより健全な経営に努め、県立病院としての役割を果たしていく。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。